

第116期 事業のご報告

株主通信

2025年4月1日～2026年3月31日

株式会社 椿本チエイン

証券コード | 6371

「中期経営計画2030」達成に向け、 収益力と成長力の強化に取り組んでまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2025年度の通期連結業績について

2025年度の通期連結業績は、売上高2,958億円、営業利益215億円(営業利益率7.3%)となりました。

2025年度の世界経済は、米国の通商政策を巡る不透明感や中東情勢の緊迫化がみられるなか、各国の経済政策や企業の設備投資需要に支えられ、緩やかな回復基調で推移しました。当社業績については、チェーン事業やモビリティ事業の好調に加え、2026年1月より大同工業株式会社を新たに連結子会社としたことなどにより、前期比6.0%の増収となりました。一方、大阪・関西万博への出展費用および子会社取得に伴う関連費用といった一時的な費用の計上などにより、営業利益率は7.3%と前期から0.9ポイント悪化しました。

米国の関税引き上げ、中国経済の回復遅延、また、中東における軍事衝突等により、世界経済は不透明な状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループは今年よりスタートさせた「中期経営計画2030」達成に向けて、資本コストを意識したうえで、モノづくりの強化、既存事業の収益力強化、持続的成長につながる新事業開発・商品開発の推進に注力してまいります。また、今後も社会課題の解決に貢献する企業グループとして、カーボンニュートラルの実現を含むサステナビリティ活動のさらなる推進に取り組んでまいりますので、株主の皆様には、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2026年6月

2026年度の通期連結業績予想について

2026年度の通期連結業績予想については、事業環境や足元の受注状況を鑑み、下表のとおりといたしました。

2026年度 通期連結業績予想

売上高	3,500億円	(前期比 +18.3%)
営業利益	255億円	(同 +18.2%)
経常利益	260億円	(同 +4.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	220億円	(同 △25.9%※)

※ 前期における「親会社株主に帰属する当期純利益」には、大同工業(株)の連結子会社化に伴う負ののれん発生益が含まれております。

代表取締役会長
兼 CEO
古世 憲二

代表取締役社長
兼 COO
木村 隆利



※CEO : Chief Executive Officer (最高経営責任者)
COO : Chief Operations Officer (最高執行責任者)

福井美浜工場で

大株レタスができるまで



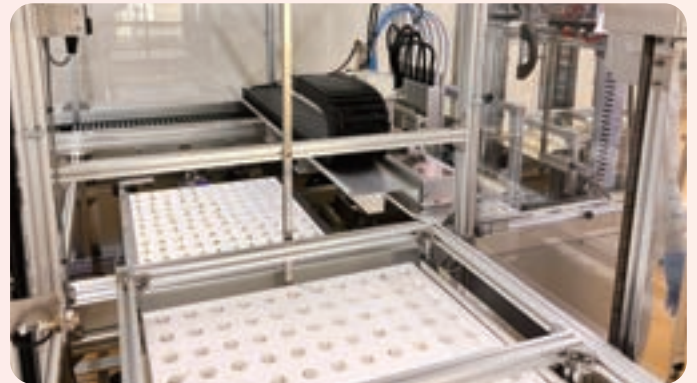
1

播種

いわゆる種まきの工程。省力化機器、治具を使いつつ、等間隔でバラツキの少ない種まきを実施



播種(2日間)



3

移植

成長した苗同士の間隔を広げるため、植え替えを行います(1回目)。ここでは、つばきの自動移植機により、1日1万株以上の移植作業を自動化しています



移植

育苗(18日間)

2

緑化

光・温度・湿度などを適切に管理した部屋で、発芽後、苗へと成長させます



大きく高品質に育つように徹底管理します!

4

育苗

移植後の苗を18日間かけて成長させます。光・温度・湿度に加え、風や養液も管理システムでコントロール。カン・コツに頼らず、安定した品質で苗を成長させることができます

前号で紹介した
福井美浜工場で生産する
大株レタスの播種から
出荷までの42日間を
ご紹介します。



5 定植

葉・根共に大きく成長した苗の2度目の植え替えを行いトレーへ。その後、生育工程、収穫工程へとトレー単位で自動搬送されます



いよいよ出荷！
種まきから出荷まで
わずか42日間！



7 収穫

成長したレタスは、トレーごと収穫工程に自動搬送されます。収穫補助機も活用しつつ、根切りなど、手作業で収穫を行います

定植

生育(16日間)

収穫

出荷

6 生育

収穫に向けた最後の工程です。生育室での16日間は、養液の補充や収穫工程への搬送など完全自動化を実現しています



収穫前の工程は
完全に自動化
されています！



8 出荷

播種から42日間で出荷！
収穫後のトレーは自動洗浄
ラインで洗浄を行い、定植
工程に搬送されていきます



チェーン事業

産業用スチールチェーンは世界シェアNo.1

モノが動くところに「チェーン」あり。国内外の様々な産業向けに、世界シェアNo.1の産業用スチールチェーンをはじめとした約2万種類のラインアップから生産性向上、省エネ、環境改善に繋がる最適なチェーンを最高の品質でお届けしています。

【主要商品】

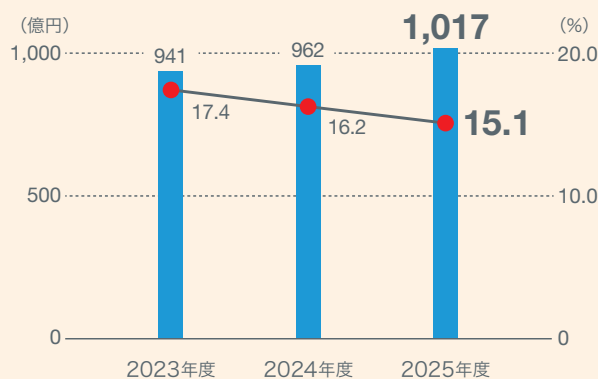
ドライブチェーン、コンベヤチェーン、スプロケット、ケーブル・ホース支持案内装置など

シェアは当社調べ

セグメント別売上高構成比^{*1}

33.7%

売上高^{*2}/営業利益率



モーションコントロール事業

減速機、直動機器などの豊富な商品群

「Motion & Control」の分野で、独自の複合化技術と豊富な品揃えを生かし、産業機械の複雑な動きを精密にコントロールするモーションコントロール商品群。舞台の昇降装置や立体駐車場、アーケードの屋根開閉、風力発電や駅ホームの可動柵など、様々な「動かす」ニーズに的確にお応えしています。

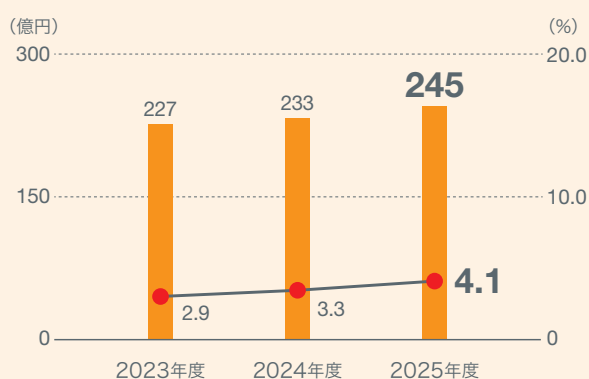
【主要商品】

減速機、直動機器、軸継手、締結具、クラッチ、電気式制御機器など

セグメント別売上高構成比^{*1}

8.1%

売上高^{*2}/営業利益率



2025年度の概況

チェーン事業は、日本、米州、欧州、環インド洋において販売が増加したことなどにより、前期比で増収となりました。モーションコントロール事業は、日本、米州、欧州、環インド洋、中国において販売が増加したことなどにより、前期比で増収となりました。

モビリティ事業

エンジンの高性能化を支える タイミングチェーンシステム

自動車エンジンの高性能化、エコ化に寄与するタイミングチェーンシステムは、国内70%、世界42%とトップシェア。その技術と品質は、世界の自動車メーカーから高い信頼を獲得しています。また、EVやe-Bikeなど次世代モビリティの分野でも、エネルギーロス・CO₂排出量削減への貢献を目指しています。

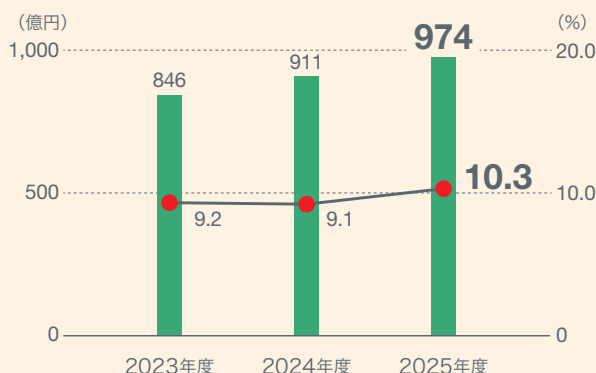
【主要商品】

タイミングチェーン、テンショナ、ガイド、レバー、スプロケット、二輪車用部品、トランスファーケース用チェーン、車載用クラッチなど
シェアは当社調べ

セグメント別売上高構成比*1

32.9%

売上高*2/営業利益率



2025年度の概況

モビリティ事業は、日本、米州、欧州、環インド洋の拠点において自動車エンジン用タイミングチェーンシステムなどの販売が増加したことなどにより、前期比で増収となりました。

マテハン事業

生産性向上や安定稼働に寄与 するソリューションを提供

自動仕分け装置や各種搬送設備などの多彩な商品とエンジニアリング力で倉庫や工場の自動化、高効率化を実現するとともに、充実したアフターサービスで安定稼働を支えています。その他、粉粒体搬送コンベヤ、金属切屑・スクラップ搬送装置など生産性向上、環境負荷低減に寄与するソリューションを提供しています。

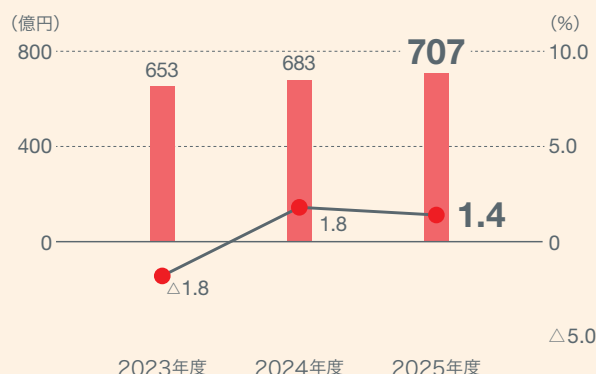
【主要商品】

物流業界向けシステム、自動車業界向けシステム、ライフサイエンス分野向けシステム、粉粒体搬送コンベヤなど

セグメント別売上高構成比*1

23.9%

売上高*2/営業利益率



2025年度の概況

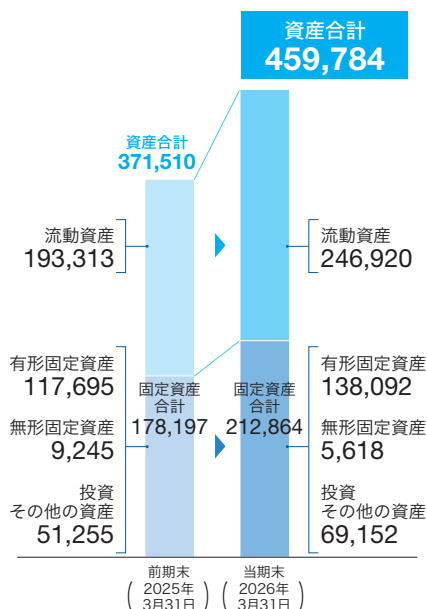
マテハン事業は、米州における自動車業界向けシステムや金属切屑搬送・クーラント処理装置向けシステムの販売が減少しましたが、日本における建設機械業界向けや物流業界向けシステムの販売が増加したことなどにより、前期比で増収となりました。

*1 セグメント別売上高構成比は「外部顧客に対する売上高」を基準に算出しています。
*2 売上高には「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

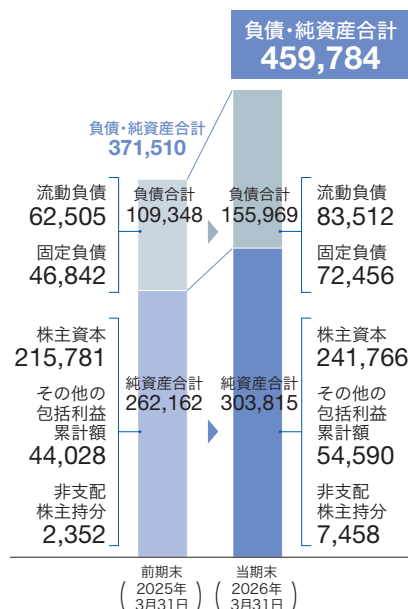
連結貸借対照表の概要

(百万円)

資産の部



負債及び純資産の部



さらに詳しい財務データは、
当社ホームページの
「IRライブラリ」をご覧ください。

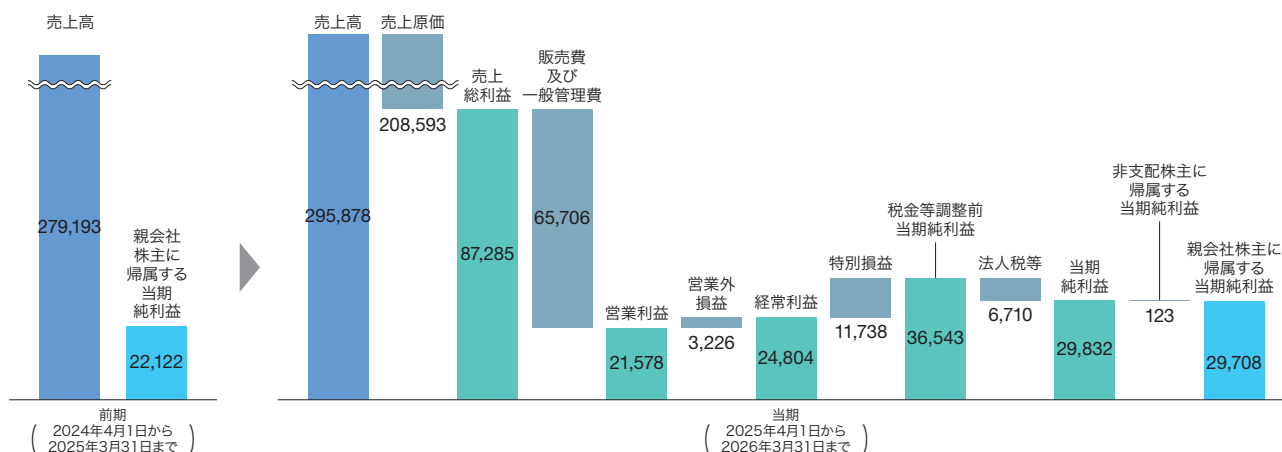
ツバキモト IR 検索

<https://www.tsubakimoto.jp/ir/library/>



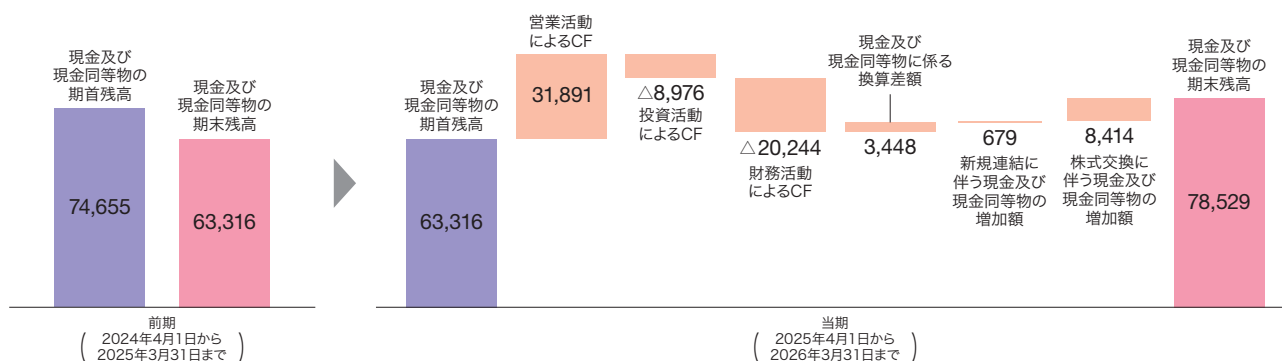
連結損益計算書の概要

(百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)



持続的成長に向けた「中期経営計画2030」を策定

当社は、中期経営計画2030を5月29日に公表しました。本計画は「長期ビジョン2030」の実現に向けた第2期の5カ年計画として、グループ全体での構造改革を通じ、持続的な成長と企業価値向上を目指すものです。

収益力の強化や新たな成長機会の創出に加え、既存事業の変革と将来の主力事業育成を進めていきます。あわせて、資本効率を意識した経営を徹底し、成長投資と安定的な株主還元の両立を図ってまいります。

中期経営計画2030における基本方針

基本方針

- 1 「量から質」へ。収益力を高め「強固な事業基盤」を構築する
- 2 「選択と集中」で新規ビジネスの事業化を加速し、持続的成長を実現する
- 3 既存の枠組みを超え、「未来の主力事業」を創出する
- 4 「技術×マーケティング」強化で、新事業を牽引する
- 5 グローバルグループ本社機能を強化し、ESG経営を深化させる



詳しくはこちら



つばきのサステナビリティ

健康経営 | 「全員快勤」に向けてウォーキングキャンペーンを開催

つばきグループは、「人が最大の経営基盤」という認識のもと、従業員がイキイキと活躍し、自主性と創造性を発揮できる企業(全員快勤)を目指して、個人の健康、組織の健康の2方向から従業員家族も含めた健康経営を推進しています。

社内ポータルサイトに開設した「TSUBAKI Good Health」では、e-Learningを活用した生活習慣病予防、卒煙サポート、睡眠習慣改善、メンタルヘルスケアなど様々な啓発活動を実施。10月の「健康月間」では、「運動習慣づくり」をテーマにウォーキングキャンペーンを開催しました。国内グループ会社から57チーム258名が参加し、1カ月間の総歩数7,722,226歩を達成。距離にして54,058km、地球1.35周分と、皆で楽しく健康増進につなげました。

企業成長の担い手である「従業員」。今後も従業員の心と体の健康維持・増進に向けて、健康支援施策を実施していきます。



会社概要

商 号	株式会社椿本チエイン
本店所在地	大阪府北区中之島3丁目3番3号
設立年月日	1941年(昭和16年)1月31日
資本金	17,076百万円
工場	京田辺、埼玉、長岡京、兵庫、岡山、福井美浜
支店	東京、名古屋、大阪、DX・IT池袋ベース
営業所	大宮、豊田、大阪北、広島、九州
関係会社	連結子会社：84社 非連結子会社：12社 関連会社：14社(うち、持分法適用関連会社3社)
従業員数	連結12,228名 単体3,126名 (従業員数には契約社員、パート、アルバイトを含んでおります。)

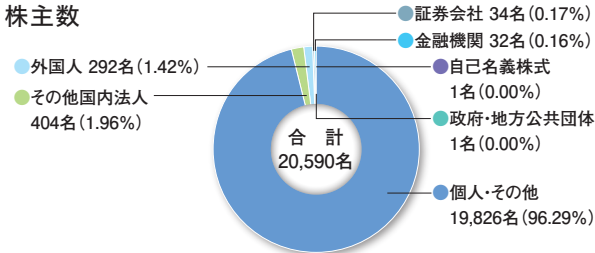
役員 (2026年6月26日現在)

代表取締役会長兼CEO	古世 憲二	常務執行役員	明坂 泰宏
代表取締役社長兼COO	木村 隆利	常務執行役員	前田 隆雄
取締役	宮地 正樹	常務執行役員	中久保 克也
取締役	安藤 圭一(※1)	上席執行役員	丹山 淳
取締役	北山 久恵(※1)	上席執行役員	熊倉 昌由
取締役	谷所 敬(※1)	上席執行役員	藤村 昌由
常勤監査役	田中 浩司	上席執行役員	吉村 信彦
常勤監査役	川崎 加寸也	上席執行役員	新家 啓史
監査役	川崎 清隆(※2)	執行役員	佐伯 充史
監査役	山本 崇晶(※2)	執行役員	上田 修
常務執行役員	岡本 雅文	執行役員	荒木 和彦
常務執行役員	Kevin Richard Powers	執行役員	北川 康明
常務執行役員	堀田 利浩	執行役員	内丸 潤一
常務執行役員	堀和 伸光	執行役員	西田 努
常務執行役員	川上 修	執行役員	宮野 博之

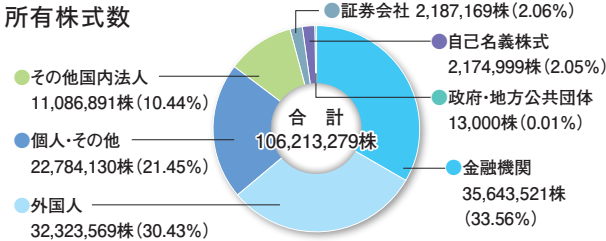
(※1) 取締役のうち安藤圭一氏、北山久恵氏および谷所敬氏は社外取締役です。
(※2) 監査役のうち川崎清隆氏および山本崇晶氏は社外監査役です。

株式の所有者別分布状況

株主数



所有株式数



株主の皆様へのお知らせ

各種手続のお申し出先

- ▶ 住所変更、配当金の受け取り方法のご指定、
単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

区分	お申し出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま	三井住友信託銀行株式会社 (上記、電話照会先をご参照ください。)

株式の状況

発行可能株式総数	179,400,000株
発行済株式の総数	106,213,279株
株主数	20,590名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,166千株	9.77 %
太陽生命保険株式会社	9,130	8.78
椿本チエイン持株共栄会	5,021	4.83
日本生命保険相互会社	4,316	4.15
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3,726	3.58
椿本興業株式会社	3,476	3.34
株式会社三井住友銀行	2,184	2.10
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,163	2.08
CEPLUX-THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2	2,118	2.04
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	1,725	1.66

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は、自己株式2,174,999株を所有しておりますが、上記大株主には含めておりません。
3. 持株比率は、自己株式2,174,999株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・休日を除く) ※取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告の方法	当社のホームページに掲載 (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載)

特別口座について

株券電子化の手続(証券会社の預け入れ)が済んでいない株式は、特別口座にて管理されています。特別口座は株式を売買するための取引口座ではありませんので、株式の売却の際は、あらかじめ証券会社の口座へ振り替えておく必要があります。詳細は、三井住友信託銀行株式会社(上記、電話照会先をご参照ください。)にお問い合わせください。

未払配当金の支払について

三井住友信託銀行株式会社(上記、電話照会先をご参照ください。)にお問い合わせください。

株主通信(事業のご報告)に関するお問い合わせ先

サステナビリティ戦略部 広報・IR課

06-6734-6676

株式会社 椿本チエイン

<https://www.tsubakimoto.jp/>

椿本チエイン

検索

